

製品名: GPR56 マウスモノクローナル抗体**カタログ番号: AMM85977**

研究使用のみ

概要

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	WB
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	Mouse IgG1
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.05% アジ化ナトリウムを含む PBS で精製された抗体。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000
分子量	77.7kDa

抗原情報

遺伝子名	GPR56
別名	G-protein coupled receptor 56, Protein TM7XN1, GPR56 N-terminal fragment, GPR56 NT, GPR56(N), GPR56 extracellular subunit, GPR56 subunit alpha, GPR56 C-terminal fragment, GPR56 CT, GPR56(C), GPR56 seven-transmembrane subunit, GPR56 7TM, GPR56 subunit beta, GPR56, TM7LN4, TM7XN1
遺伝子 ID	9289.0
SwissProt ID	Q9Y653
免疫原	この抗体は、組み換えタンパク質で免疫化されたマウスから生成されます。

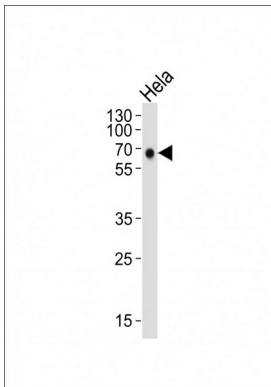
背景

細胞接着に関与し、おそらく細胞間相互作用にも関与している。神経前駆細胞の移動を制御する。発達中の脳におけるコラーゲン III/COL3A1 の受容体であり、皮質発達の制御、特に軟膜基底膜の完全性の維持と皮質の積層に関与する。COL3A1 リガンドへの結合は神経細胞の移動を阻害し、GNA13 およびおそらく GNA12 との共役により RhoA 経路を活性化する。アイソフォームは受容体シグナル伝達、特に過剰発現時の血清応答エレメント (SRE) 転写活性化に違いを示す。過剰発現はメラノーマ腫瘍の増殖および転移を阻害し、メラノーマの進行中に PRKCA を介して VEGFA 産生および血管新生を制御する。未処理の GPR56 は血管新生を阻害し、GPR56 NT は血管新生を活性化する。

研究分野

-

画像データ



Hela 細胞株ライセートのウェスタンブロット解析。GPR56 マウスモノクローナル抗体を 1:2000 に希釈した。二次抗体として、ヤギ抗マウス IgG H&L(HRP)を 1:10000 に希釈したものを使用した。ライセート量は 20 μ g。